

射水市総合計画審議会 第2回活力元気部会 会議録

日 時 令和4年3月10日(水) 午後7時～8時30分

場 所 射水市役所大島分庁舎3階大会議室

出席者(敬称略)

(委員)

岩口久梨果、牛塚松男、大西宏治、尾山春枝、古池清一、笹川征一、津田奈由子、牧田和樹、森由佳子、亘建邦

オブザーバー：鈴木真由美、門田晋、宮城克文

欠席委員：塚本清

(当局)

現地参加

小塚企画管理部長、宮本産業経済部長、島崎都市整備部長、杉本企画管理部次長、福井産業経済部次長、南都市整備部次長、片口商工企業立地課長、久々江港湾・観光課長、遠藤農林水産課長(農業委員会事務局長)、橋本都市計画課長、山口道路課長、酒井建築住宅課長、高橋用地・河川管理課長、盛光政策推進課長

リモート参加

橋本上下水道部長、吉田上下水道部次長、堀上下水道業務課長、前田上水道工務課長、山下水道工務課長、

- 1 開会
- 2 部会長あいさつ
- 3 議事

(1) 政策ごとの課題の整理と主要施策(案)の検討

政策推進課長	資料の確認
部会長	資料1は、第1回部会での皆さんからのご意見の右側に、事務局に役所的な観点から「できない理由」を書いてもらったものである。施策を進める上で、必ずこういう壁にぶつかるので、事前に理解してもらうとともに、実現するためには、これを乗り越えていかなければいけない。どうやって乗り越えていくかを今日は考えていただきたい。すぐには出ないと思うので、5、6分でまとめてほしい。
	(各自、ポストイットへ記入)
部会長	発言いただくときのポイントを紹介する。まとめた資料の意見は、ターゲットとなる世代ごとに分けている。「子ども」、「学生」、「若者」、「現役」、「市民全般」となっているが、ここに「子育て世代」をカテゴリとしてあると思っている。本部会の目的は、活力を生み出すことであり、活力は関係人口をいかに増やすかということである。関係人口をつくるには、きっかけをつくる段階、次に行動の段階、最後にそれらが継続する、の3つの段階がある。この3つの段階を意識し、それぞれの段階でどのようなことが必要であるか、という観点で発言いただきたい。
委員A	前回は、空き家を使ったDIYツアーを提案した。これについて、きっかけは、ツアーへの参加、行動は、ツアーでのDIYの実施であり、このツアーに何回か参

加している中で、射水はいいところである、手がけた建物に住みたい、という定住につながるのではないか。

委員 B 前回、観光の面から意見したが、世代は「他」になるのか。

部会長 そこに、リタイアされた方、高齢者の方なども入ると思う。全国の人が対象である。

委員 B きっかけは、そこに行きたいという思いであり、その思いをつくっていくためにはPRしかないと思う。今は個人旅行がメインになっているので、SNSなどを使っていくのがいいのではないか。拡散させるのに一番いいのは、インフルエンサーとうまくやっていくことである。富山出身の人気ユーチューバーとうまく連携していくのはどうか。

行動としては、訪れたときに楽しさを味わえるコンテンツづくりであり、今求められているものは、歴史や体験などをつなげたストーリーである。観光庁の資料をみても、極小部分を深く掘り、それらを線でつないでいく、面にしていくという地域磨きに補助金がかかり出ているので、それを活用していくのがよいと思う。

部会長 ストーリーテラー、物語性が重要である。

委員 C 定住人口について、県立大学の理事長と話をしたとき、「教職員が市内にいない。富山や高岡から通おうとしている。」という話があった。射水市に大学や専門学校があるのに、教える側が外にいる。定住人口を増やすには、教職員向けのマンションに入ってもらるか、空き家をリフォームして一軒家に入ってもらうのが簡単であるが、射水市はどちらもない。学生だけでなく、教職員にもアプローチすれば、学生以上に長く継続的に住んでもらえる。ターゲットを明確にしたほうがよい。

また、DXについて、今はアプリの時代であり、市民に情報伝達するには、射水市アプリを持つことが一番手っ取り早い。ただ、行政で作ってしまうと行政の仕組みにしかならないので、民間で開発していくことが重要である。

部会長 いろいろな場面でのアプリがあると思うが、一番効果を発揮するのは、きっかけ、行動、継続のどの段階だと思うか。

委員 C 総合情報であり、ありとあらゆる場面で効果を発揮する。プラットフォームさえ作ってしまえば、いろいろな情報を載せられる。その仕組みをつくるのが手っ取り早い。

部会長 簡便かつ迅速に情報を手に入れられるようにするということが。

委員 C そのとおり。空き家情報でも、子育て情報でも。

委員 D 大学の立場から、学生に射水市を第二のふるさととして関わる仕組みづくりがうまくいくといいと思っている。学生アイデアコンテストに参加させてもらったが、非常に面白いアイデアが出されており、すごいと思った。そのものは使えないかもしれないが、そのアイデアをうまく取り込んでもらえると、学生は自分のアイデアが射水市に取り込まれたことで思い出になる。また、それを実現するためには学生だけではできないため、行政や市内の企業、場合によっては市外の関係者とも関わるができる。そのことが継続されれば、大学、市、地域やいろいろな世代がうまくつながることができるのではないか。

委員 E 学生からまちづくりのアイデアを募る取組は富山市でもやっている。毎年実施しているが、各年で採択された取組がその1回で終わってしまう。本当は、企業や商工会議所などが引き取り続けていけば、提案をした学生はそこをふるさとと感じたと思う。きっかけ、行動はあっても継続がない。継続するためには大人の力が必要であり、我々が支援しなければいけないところが出来ていなかった。アイデアを拾い、どう継続させていくかを考えていく必要がある。

また、私は、子育て中に大島絵本館やこどもみらい館をよく使わせてもらった。射

水市には、冬でも利用できる屋内型の施設が充実している。これらを活用し、イベント等をきっかけとして全国から人が集まり、楽しんではあるが、さらに繰り返して来ようというところが出てこないといけない。特徴的なハードがあっても、それを「磨き切る」というところが足りないのではないか。

部会長

磨き切れていない要因、磨き切るために必要なことは何か。

委員 E

そこに関わるプロフェッショナルな人材をどれだけ投入できるか、という気がする。それぞれ仕事としてパーフェクトにこなしているかもしれないが、さらにその上がないと、繰り返しがずっと続くだけになっている。

委員 F

現役世代のきっかけは、就業することが一番だと思う。行動としては、学校と連携した職業体験など、卒業生が残ってくれる環境づくりを地道にやっていかなければいけないと思う。働く場所がないということは決してなく、どちらかという人手不足の事業所が多い印象である。その中で、射水市として人を集めるのであれば、情報の使い方が非常に重要になってくると思う。働く人が増えれば、結婚する人、子どもをつくる人が増えてくる。

継続については、住環境でアプローチする。空き家の活用やマンション、アパートの整備など、民間と一緒に進め、若い人でも住み易い低価格、低コストの住環境を整えていく。射水市は商業において魅力があり、個人の店舗など特色あるお店が増えていけば定着すると思う。

委員 G

射水市に住んでもらう、ずっと住み続けてもらうためには、子どもの頃からいろいろな体験をし、やっぱりここが一番いい、都会で大学4年間を過ごしても地元に戻ってくる、という体験をさせたい。14歳の挑戦や高校の体験学習、海岸清掃への参加等を通じて、地域の大人とのつながりもできる。子どもたちも巻き込んで地元を良くするために考え、行動していくことが大事だと思う。

委員 H

最近、本社がない企業が増えたり、パソコンひとつで仕事ができる働き方をしている人が増えている。射水で半日働き、半日観光、など旅行しながら働くワーケーションを取り込んでいくといいのではないかと。特に独身の人に来てもらい、射水市の女性の人と出会うきっかけになればいい。働く場が限定されない分、射水がいいと思ってもらえればずっとここにいてくれると思う。夏休みなどに家族を連れてきて、父親は働きながら過ごし、子どもはいろいろな体験をするプチ暮らしをしてもらえたらうれしい。

部会長

プチ暮らしをするために、まず必要なものは何か。

委員 H

プチ暮らしのための場所。空き家など。また、学生のアイデアを取り込むことに関して、商工会や企業でなくても、サポートしてくれる大人がいるだけで、出来ることの幅が広がる。やってみたら、と後押しをしてくれる大人が増えたらいい。

委員 I

県出身者でもない県外の学生で、一度だけ射水市の伝統文化にふれ、それに感銘を受けて、学校を休学して射水市で活動している人がいる。その人は、既存とは違う、非日常的なコミュニティを求めていて、かつ、ありふれているデジタルコンテンツではない、伝統的なものに触れたい、ということで祭りに参加されたとのことである。人から誘われる、ということが一番、行動につながるようだ。射水市の多種多様な団体の方々を巻き込み、広げていってもらうことで、参加する人が増えていき、その中で、まちのために働く意欲のある人が力をつけていき、リーダーシップを発揮する人として成長していけば、世代交代もうまくいくと思う。

そのためにも、団体間のコミュニティをつくることができたらいいのではないかと。県外の人縁のなかったまちのために動いていることに対し、地元の人が刺激されて頑張っている人もいるようだ。

部会長

ちなみに、曳山に連れてきた人はどんな人か。

委員 I

人手が足りないから、手の空いている人を誘ったのかもしれない。

部会長	曳山を曳く人がいないから連れてきて一度曳かせたらはまってしまったと。
J委員	<p>かつて、老人施設の誘致の話があったとき、多くの反対意見がある中で、私が熱量を込めて訴えたところ、大門の役場、小学校の近くに老人施設が建設された。そうすると、子どもたちの姿を見てお年寄りが元気になる、そこに病院が集まる、学校も近く安心して生活できる環境があるということで若い世帯が集まり、その一角だけ子どもがどんどん増えてきた。来てくれと言わなくても勝手に集まってくる。どんなまちづくりをしていくかのアイデアが大事である。</p> <p>また、学生たちがここに来て勉強していても、黙っていたら帰って行ってしまふ。学生をきちんとフォローし育てて呼び込むことが大事である。コロナ禍で遠い学校に行けないということであれば、ここに魅力あるまちづくりへの参加の場をつくっていけば、必然的に関係人口、定住人口も増えていくのではないかと。</p>
K委員	<p>先ほどの意見を実現させるための機能を、射水の真ん中の小杉駅に持たせることができれば、いろいろな地域課題が解決するのではないかと考えている。</p> <p>例えば、立山町の五百石駅では、コミュニティホールやギャラリー、図書館、交流サロン、ミーティングサロン、保健センターが設置されている施設を町が整備している。</p> <p>県外では、長野県の中軽井沢駅には、しなの鉄道と軽井沢町が協働で図書館やカフェ、観光案内、チャレンジショップなどがある施設を整備している。こうした機能を使っているいろいろな人たちがつながり、生きがいを見出し、活躍することで、じわじわと効果が市域全体に広がっていくことが期待できる。市民合意を得て、資金面では民間活力の活用や国・県の応援も受けながら、実現に向けた道筋ができたと思う。</p>
部会長	そうした拠点をつくるというのは、交流を創り出すということか。
K委員	交流が生まれる入口をつくったり、射水について知る場が生まれる。
副部会長	<p>限られた期間で効果を上げていくためには、他県の事例などを参考にしながら、即効性のあるものをちょっと先にあるものにつなげていく取組を考えていったらどうかと思う。</p> <p>射水市で働いている井口村在住の人が、射水市に移住してこない理由について、井口村は子育ての手当がすごく厚いからという話があった。子育て家庭の親に対して、何があれば定住したいかについてヒアリングをしたり、射水市に住むきっかけづくり、仕組みづくりをしていかなければいけないと思った。併せて、補助金などメリットについて、ちゃんと情報発信していくことが重要である。</p> <p>また、金沢工業大学の学生と交流する機会があったが、空きスペースを活用して事業化し、運営資金やバイト料に充てる収入を得ている活動をしていることを知った。そういった新しい創業のきっかけづくりは、富山大学や県立大学でも教えているのではないかと。そうしたチャレンジに空き家を活用したり、それを拠点として地域の皆が関係し合える形づくりができればいい。地域の人たちも若い人たちの頑張りを応援したいと思う。うまく巻き込むような仕組みができ、そこから少しずつ関係者をつくり、定住につなげていくという取組ができればいい。</p> <p>資料の中で、電子掲示板の普及という意見に対し、結ネットに取組中と書いてあるが、役所から出される回覧の内容だけでは面白味がないため、もっと回覧板をみてもらえるコンテンツについても考えていったらいいと思う。</p>
部会長	ひと通りご意見を頂戴した。今までの意見をお聞きになり、事務局から意見はあるか。
企画管理部長	どうやって継続性を担保するのか、資金面、人材面を含め、どのように構築すればいいのか、思いを巡らせながら話を聞かせていただいた。また、価値観の多様性、違いを射水市は認めている、だから、いろいろな人に射水市を訪れてほしい、住んでほしい、関係を紡いでほしい、というアナウンスが、これからは必要であると感じた。

部会長	金、人をどうするかという話があったが、こうすればいいというアイディアはあるか。究極の課題だと思う。専門的な人材の配置でもお金がかかってくる。
委員 B	役所側は補助金をカンフル剤だと思って出しているが、それがいつの間にか麻薬になっているというのが現実である。一番いいのは、カンフル剤で「人をつくる」という部分が大事だと思う。ちょっとしたお金で影響力のある人を引き込む。中の人を育てるのもいいが、中の人を気づかせるために外の人を持ってくるというのが一番いい。本物のインフルエンサー、影響力のある方々にカンフル剤を投入してもらい、そういう人たちの発信力を活用して教育につなげていく、ということも考えられるのではないか。
部会長	そういう取組の事例は射水市にあるか。私を知る限りない。
委員 B	富山はすごく地縁者を大事にする県だと思う。リタイヤされた地縁者を引き込み、まちづくりを進めていくとか。軽いインフルエンサーと重いインフルエンサーを使い分けながら、そこにカンフル剤を投入するというは、一つの道としてはあると思う。
産業経済部長	関係人口を増やしていくには、まずは射水市を知ってもらうことが大切であり、今であればSNSを最大限活用していくことが効率のいいやり方であると思う。それを具体的にどうするかが課題である。 実際に行ってみようとなったとき、訪問先が質の良いものでなければならない。そういったものをいかに増やしていくかということも大事だと思う。子どもを対象とした施設でも、大島絵本館やこどもみらい館と、東京ディズニーランドやサンリオピューロランドでは、子どもがどっちに行きたいかという、当然後者に行きたいと言う。その差は何かというと、突き抜けた感覚やそこで事業をやっているという覚悟の差ではないか。そういう人たちをいかに射水市に来てもらうことが大事ではないかと思う。最終的には、何かをやっていくにはお金が必要であるという現実がある。
部会長	切り口として大事なことは、これからは行政といえども稼がないといけない。使うことばかりでなく、どうやって付加価値、お金を生み、それを次に回していくかについて真剣に考え、今度の総合計画にそういったポイントを入れていかないと。東京ディズニーランドをつくる時に、大島絵本館と比べてどれだけのお金をつぎ込んだか、それによって経営破綻せず、次々とお金を生んでいる。これからはその発想も大事である。
委員 C	行政が稼ぐという視点もあるが、民間資金を投入するということが必要であり、そのためには、行政サイドで魅力あるステージ、フィールドを用意してもらい、投資してビジネスとして成立するような要素がないと誰も投資しない。儲ける意識というよりも、どうしたら少ない投資で市民に喜んでもらえる環境がつかれるのか、という視点が大事な気がする。一定の利益が出ないと継続性が保てない。少ない投資で一定の利益を出すことができる環境を整えることに注力していかないと、民間企業は乗ってこない。その舞台を整えることが課題であると思う。
企画管理部長	前回、今回といろいろな取組、施策のヒントをいただいている。一つ一つ実行していったときに、それぞれが小さくてもいいので、すべてにおいてビジネス性があり、小さな枠の資金の循環が止まることなく続いてほしい。そうでないと、どこかで金の切れ目が縁の切れ目になってしまう。10年20年、さらに30年40年と、まちの姿がどう変わっていくかをみんなで見れるくらいの長い継続性がほしいと考えている。
都市整備部長	空き家は、地域課題の解決のヒントになり、活用できるが、空き家を把握したときには朽ち果てており壊すしかない。市場に回る段階での空き家対策が重要である。

上下水道部長	上下水道部の所管として水の安定供給がある。当たり前にあること、日頃の生活が幸せであることになかなか気づいてもらえないところがある。個人的な意見であるが、射水市の中に若い人たちが楽しく過ごせる場所があればいいと思っている。射水市には海があり、その近くでアウトドアが楽しめる施設があればいい。
部会長	遊びに行きたいところで思いつくところはあるか。
委員 E	富山市に何が足りないか大学生に聞いたところ、遊ぶ場所がないという意見があるが、よく精査するとそんなに遊ぶ場所がないわけではない。1年に1回しか行かないようなディズニーランドはないが、そうではなく、自分たちで遊ぶということを作り出していないということが問題である。そのことに、若い人たちに気づいてもらう機会があればいい。
部会長	ほかに気づいたことがあれば発言いただきたい。 (意見なし)
部会長	本日いただいた貴重な意見を事務局で計画の形にまとめていくが、このことについて、部会長、副部会長に調整を一任いただきたい。 (異議なし)
産業経済部次長	今日発言できなかったことがあれば、事務局にメール等で送ってほしい。

#### 4 その他

事務局	次回部会を4月に開催し、新しい枠組みの事務局案をお示しするのでご意見をいただきたい。その後、再び5月に部会を開催するので、その段階では、基本構想素案と基本骨子案を固めていく形を考えている。日程については改めて案内する。
部会長	次の部会では、具体的にどんな意見を伺えばよいのか。
政策推進課長	初めに提示した構成案は行政寄りで分かりにくいというご意見に対し、事務局として市民目線での構成として考えた案を提示するので、次回部会は、それを議題にして開催したい。その枠組みが了承いただければ、5月の部会では、その枠組みに沿って、今回のご意見を入れ込んだ形での案をお見せしたいと思っている。
部会長	新しい枠組みで、前回と今回の委員からの意見を入れ込んだものを次回に出すということか。
政策推進課長	頭出しで一部出てくるところもあるかと思うが、最終的には5月の部会で細かなところまでお出ししたい。次の部会では、項目出しの部分だけ意見を反映させた枠組みを提示し、その次に文章化された具体的なものを出したい、そういったイメージで進めたいと考えている。

#### 5 閉会

以上